

**佐賀大学附属図書館
自己点検・評価報告書
平成 30 年度**

令和元年 12 月

**佐賀大学
学術研究協力部情報図書館課**

目 次

I	附属図書館の目標・計画	1
II	附属図書館の概要	3
III	領域別評価	
1	教育支援	4
	(1) 資料の計画的収集	
	(2) 資料の提供・活用	
	(3) 情報リテラシー教育支援（図書館オリエンテーション）	
	(4) 学外図書館からの文献入手（図書館間相互貸借 ILL:Inter Library Loan）	
	(5) 読書奨励	
	(6) 自学自習環境の整備	
	(7) 広報	
	(8) 評価及び課題	
2	研究支援	10
	(1) 研究用資料の収集	
	(2) 電子ジャーナル	
	(3) 文献等データベース	
	(4) 研究情報・文献情報の電子化	
	(5) 評価及び課題	
3	社会貢献	12
	(1) 市民への情報サービス	
	(2) 公開講座（講演会、展示会）	
	(3) 地域資料の収集	
	(4) 貴重資料の利用	
	(5) 実習・研修生の受け入れ	
	(6) 評価及び課題	
4	組織運営	15
	(1) 組織の編成・管理運営	
	(2) 財務	
	(3) 評価及び課題	
5	施設・設備	18
	(1) 施設、設備等の整備状況	
	(2) 施設、設備等の利用状況	
	(3) 評価及び課題	

I 附属図書館の目標・計画

【資料】第3期中期目標期間における部局の計画等

1 第3期中期目標期間（平成28年度～令和3年度）における目標及び計画

附属図書館は、本学の行う教育、研究に関わる学術情報を収集・蓄積し、効率的に提供する。また、学生の自発的な学修・研修を実施するラーニング・コモンズ施設を整備し教育の質的転換を推進すると同時に、学生の就職活動、本学に在籍している外国人留学生及び海外に留学する学生支援などのため、体系的かつ網羅的に図書館資料を収集し、情報ネットワークを整備して、より効果的な学習環境を提供する。さらに、本学の社会貢献のひとつとして、地域に開かれた生涯学習の活動を推進して行く。

(1) 教育に関する目標・計画

【目標】

教育の質的転換を推進するために、学生及び教員の自発的な学修・研修を実施するラーニング・コモンズ施設などを整備し活用する。また、学生の就職活動を支援するため、キャリアセンター等と連携して、関連する図書館資料を整備する。(第3期中期計画番号8及び17に該当)

【計画】

- 1) ラーニング・コモンズの利用状況を調査し、効果的な利活用を促進する。
- 2) 学生の就職活動を支援するため、キャリアセンター等と連携して関連する図書を附属図書館に整備する。

(2) 研究に関する目標・計画

【目標】

研究成果の社会への還元に関する具体的方策を講じる。(第3期中期計画番号22に該当)

【計画】

研究成果の社会への発信を支援するため、本学の研究成果を機関リポジトリに登録して情報発信する。

(3) 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した目標・計画

【目標】

教員養成系学部の卒業生に占める教員就職に関する支援を行う。(第3期中期計画番号36に該当)

【計画】

教員を目指す学生の学習支援のため、教育学部等と連携して関連する図書を附属図書館に整備する。

(4) グローバル化に関する目標・計画

【目標】

交換留学生や短期留学生の受入れ及び海外留学派遣者数を増加させるため支援を行う。(第3

期中期計画番号 39 及び 40 に該当)

【計画】

- 1) 外国人留学生を支援するため、国際交流推進センター等と連携して、外国人留学生向けの関連する図書を附属図書館に整備する。
- 2) 本学学生の海外留学支援のため、国際交流推進センター等と連携し、学生の海外志向に関する図書を附属図書館に整備する。

(5) 附属病院に関する目標・計画

【目標】

看護師の教育制度を充実し、地域医療を支える良質な医療人を育成する。(第3期中期計画番号 47 に該当)

【計画】

看護学継続教育を支援するため、看護学教育研究支援センターと連携して、図書館利用を促進する。

(6) 経費の抑制に関する目標・計画

【目標】

人件費以外の経費を抑制するため、光熱水等の使用量を第2期中期目標期間の最終年度より3%削減する。(第3期中期計画番号 63 に該当)

【計画】

平成29年度実績を踏まえ、光熱水等の経費削減目標を設定し、管理的経費を削減する。

(7) 法令遵守等に関する目標・計画

【目標】

大学活動全般、学内規則を含めた法令遵守に関する啓発活動等に取り組む。(第3期中期計画番号 71 該当)

【計画】

附属図書館本館および医学分館において、災害、事故等に備えるために防災訓練等を実施する。

II 附属図書館の概要

【資料】II-1 蔵書数、II-2 図書受入冊数、II-3 雑誌受入種類数、III-1-2 電子書籍導入状況 III-2-1 電子ジャーナル導入状況、III-2-3 文献等データベース、III-5-1 面積・閲覧 座席数・書架収容力

附属図書館は、教育学部（文化教育学部）、芸術地域デザイン学部、経済学部、理工学部、農学部がある本庄キャンパスに本館、医学部がある鍋島キャンパスに医学分館を配置する。

（1）施設・設備

本館は、鉄筋4階建てで総面積5,332㎡である。ラーニング・コモンズ、閲覧室、閲覧個室、グループ学習室、マルチメディアコーナー等の利用者用スペースと、会議室、事務室等の管理スペース及び書庫等を有する。1階から3階が利用者用スペースとなっている。利用者用スペースには座席635席を備え、学内LANに接続された端末を74台、及び情報コンセント等、ネットワークを利用した学習環境を整備し、学生及び研究者の学習、研究の能率向上を図るよう配慮している。

本庄キャンパスには本館建物の他に旧館書庫332㎡を有する。

医学分館は、鉄筋2階建てで総面積1,769㎡である。座席192席を備え、利用者用として学内LANに接続された端末62台を配置するとともに、図書等の蔵書構成、配置等について十分に検討し、自学自習が効率よくできるよう配慮している。

両館とも設備・備品として、退館管理システム（BDS）、図書自動貸出返却装置、全館冷暖房設備、エレベータを備えている。

（2）図書館資料

本庄キャンパスでは、図書（視聴覚資料を含む、以下同じ）は、教育研究組織・教育課程に即し、医学・看護学を除いたほぼ全分野にわたる資料593,406冊を所蔵している。内訳は、和書418,859冊、洋書174,547冊である。

雑誌は、人文・社会・自然各分野にわたる国内外の学術雑誌、大学論集、紀要等合わせて9,521種類を所蔵する。また、附属図書館閲覧室に配架の学習用雑誌は、学術雑誌から就職に関わる受験雑誌等まで幅広く収集し、提供している。

医学分館では、図書は、医学・看護学を中心に115,449冊を所蔵している。内訳は、医学・看護学分野の和書69,167冊、洋書46,282冊である。雑誌は、医学・看護学関連雑誌を中心に一般教養雑誌を含め約2,360種を所蔵している。図書・雑誌ともすべて開架書架に配架し、提供している。

また、全学で利用できる電子的資料として、文献等データベース11種及び、主要出版社の電子ジャーナルをはじめとして全5,398種の電子ジャーナル、19,146点の和書・洋書の電子書籍へのアクセスが可能となっている。

Ⅲ 領域別評価

1 教育支援

(1) 資料の計画的収集

【資料】Ⅱ-1 蔵書数、Ⅱ-2 図書受入冊数、Ⅱ-3 雑誌受入種類数、Ⅲ-1-2 電子書籍導入状況、Ⅲ-1-3 電子書籍アクセス数、Ⅲ-1-4 図書除籍冊数

本館

①資料費の確保

教育・学習支援を使命とする附属図書館では、学生用図書、電子情報資料等（以下、学生用資料）の資料費の確保は最も重要な課題の一つである。資料費は法人化直前に大学の経常経費として認定され、法人化後は図書館への基本予算として計上されている。

②学生用資料の選定と収集

学生用資料は、本学教員と図書館職員で構成する附属図書館選書専門委員会で購入計画を立案し、計画的に収集を行っている。

学生リクエストの活用や学生選書の実施、就職支援や留学支援等、関係部署と連携しての選書等、様々なニーズに対応する取り組みを行いながら、学生用図書の整備に努力している。

③シラバス掲載参考書

学習用図書として特に重点的に収集を図る必要がある資料として、シラバスに掲載されている参考書がある。新年度当初にシラバス掲載参考書を利用できる状態にするには前年度内に資料を購入し整理しておく必要があり、教員、学務部の協力によるシラバスの早期登録、シラバス中の図書情報の体系的な抽出により実現している。

平成30年度は、参考書の指定があった全科目について発注し、223冊購入した。

④学生希望図書

学生が図書館で読みたい図書をリクエストできる「学生希望図書制度」をWebシステムで運用している。リクエストされた図書は館内で審議を経た後、購入する。図書館利用オリエンテーション等において「学生希望図書制度」について積極的に広報を行っており、平成30年度は137冊購入した。（後述する図書館サポーターが選書した図書を含む。）

⑤図書館サポーター学生（さらりーず）が選書した図書

読書奨励企画として、本館及び医学分館の蔵書構築作業の一部に学生が参加できる図書館サポーター学生グループを組織し、「学生選書ツアー」を実施している。選書し購入した図書は、図書館入口に近い場所に特設コーナーを設置して配架している。図書館の中でも人気のコーナーになっており、貸出利用も多い。

⑥佐賀大学の年度計画実施に関連する図書の収集

平成30年度は、学生の就職活動支援のため、キャリアセンターと連携して就職活動に関連する図書67冊、教育学部生を主とする教職を目指す学生のため、教育学部と連携して教職に関連する図書40冊、本学に留学してくる外国人留学生支援のため及び本学学生の海外留学支援のため、国際交流推進センターと連携して関連する図書を124冊整備した。

⑦電子書籍

学生の自学自習支援を整備方針の中心に据え、自宅等からの利用やラーニング・コモンズでの利用を考慮して、和書の辞書事典類、入門書等を中心にした整備を行っている。

平成 26 年度には利用促進のため、図書館 Web サイトに電子書籍（電子ブック）専用ページを作成するとともに、和書の電子書籍の蔵書検索ができるように目録を整備した。平成 30 年度は、15 冊の電子書籍を整備した。

⑧資料の除籍

研究室からの返却図書が増加により書架の狭隘化が進んでいるため、計画的に除籍を進めている。平成 30 年度は 2,342 冊の除籍を行った。

医学分館

医学分館における研究用及び教育用の図書・雑誌の整備は、医学部教員で構成される医学分館運営委員会で検討を行っている。医学部のシラバスに掲載された参考書はすべて収集しているほか、医学部教員等から推薦された図書を委員会で選定し、計画的・系統的に収集している。平成 30 年度は 173 点の推薦があり、学生の自学自習用に広く利用されている。学生リクエストの活用や学生選書の実施により、学生目線の選書にも留意している。

また、医学・看護学という専門の性格上、常に最新版の資料を収集するよう留意している。所蔵する専門図書、参考書の改版・新版等を積極的に収集するとともに、改版等や年月の経過により利用価値を減じた図書を除籍し、書架の活性化に努めており、平成 30 年度は改版や重複などの除籍予定図書の収集を行った。

(2) 資料の提供・活用

**【資料】Ⅲ-1-1 利用対象者数、Ⅲ-1-5 開館時間、Ⅲ-1-6 年間開館日数等、Ⅲ-1-7 入館者数
Ⅲ-1-8 貸出条件、Ⅲ-1-9 館外貸出状況**

1) 開館時間等

本館

①開館時間

利用状況の調査や学生の利用アンケートに基づき開館時間の最適化を図り、資料Ⅲ-1-5 のとおり開館している。

②館内飲食

パソコン・視聴覚機器を設置している席を除き、密封できる容器に入った飲み物の飲用を認めている。

医学分館

①開館時間

利用状況の調査や学生の利用アンケートに基づき開館時間の最適化を図り、資料Ⅲ-1-5 のとおり開館している。

磁気カードによる入館方式により 24 時間何時でも図書館利用は可能であったが、利用学生による図書館マナー違反が多発したため、また、防犯上・危機管理の点からの判断も加え、平成 25 年度末をもって 24 時間開館を停止した。平成 26 年度からは、朝 6 時から 8 時 30 分までの早朝開館を試行し、平成 28 年度から本運用している。また、学生の多くが実習後の夜間開館時間の延長

を要望したため、運営委員会等で検討した結果、平成 28 年 8 月 26 日に入館方式を磁気カードから IC カード対応の扉錠システムへ改修設置し、平成 28 年 10 月 11 日から平日限定で夜間の無人開館（21 時 00 分から 23 時 30 分）を試行で運用している。

②館内飲食

本館と同条件で認めている。

③看護学教育研究支援センターとの連携

平成 28 年度から年度計画の取り組みとして、看護学教育研究支援センター所属の看護師に対して、指導教員と連携して利用者登録の申請手続きを案内し、医学・看護学の専門書の貸出及び文献複写取寄せサービスの試行を行っている。平成 30 年度は 44 名の看護師に対して 7 名の利用者登録を行った。

2) 貸出条件等

本館

利用状況の調査や学生の利用アンケートに基づき貸出条件等の最適化を図り、資料Ⅲ-1-8 のとおり運用している。

医学分館

利用状況の調査や学生の利用アンケートに基づき貸出条件等の最適化を図り、資料Ⅲ-1-8 のとおり運用している。

3) 入館者数・貸出冊数

本館

入館者数は平成 26 年度以降減少傾向にあり、平成 29 年度は増加に転じたが、平成 30 年度は再び対前年度比約 6%の減少となった。

貸出冊数は平成 28 年度に大きく減少し、平成 29 年度以降は横ばいの状態が続いている。

医学分館

入館者数は、平成 26 年度から平成 28 年度まで増減を繰り返していたが、平成 29 年度から増加傾向にあり、平成 30 年度は対前年度比約 12%増加した。

貸出冊数は、平成 29 年度から減少傾向にあり、平成 30 年度はほぼ横ばいとなった。

(3) 情報リテラシー教育支援（図書館オリエンテーション）

【資料】Ⅲ-1-10 オリエンテーション実績（本館）

本館

毎年 4 月中旬から 5 月末を中心に、授業担当教員の依頼により指定された授業時間を使用して「図書館オリエンテーション」を行っている。初級コースと中級コースを用意しており、初級コースは基本的な図書館の利用案内、中級コースは電子ジャーナルや文献データベース等の利用方法等の説明を行ってきた。平成 28 年度から、初級コースをアクティブ・ラーニング（能動的学修）の手法を取り入れた内容に改め実施した。また、中級コースでは従来の内容に加え、教員の要望に応え、テーマを設定し文献や新聞記事を調査するオリエンテーションを実施した。

医学分館

毎年4月、医学部の新入学生（医学科、看護科、編入生、大学院修士課程学生）を対象に「図書館オリエンテーション」を行っている。新入生に対しては担当教員の協力により情報基礎演習などの授業時間を利用して行っている。大学院博士課程の学生を除いてほぼ全員が受講している。

（4）学外図書館からの文献入手（図書館間相互貸借 ILL : Inter Library Loan）

【資料】Ⅲ-1-11 図書館間相互貸借冊数、Ⅲ-1-12 図書館間の文献複写件数

本学は国立情報学研究所のNACSIS-ILLシステムを利用しているが、同システムの報告では国立大学全体で利用件数が減少している。これは各国立大学が電子ジャーナル・パッケージを導入したために、各大学で読むことのできるタイトル数が飛躍的に増えたことによる影響と考えられる。本学においても、文献複写や図書の貸借件数が依頼、受託とも減少傾向にある。

しかしながら、世界的な発表文献数の増加も手伝い、入手の難しい文献についての取り寄せ依頼の割合が増えているため、また、冊子の所蔵調査に留まらず、電子ジャーナルとして公開されていないか調査を行う必要があるため、処理件数の減少は業務量の減少には直結していない。

（5）読書奨励

1) 図書館サポーター学生（さらりーず）の活動

本学では、平成18年度から、学生選書委員の学生を公募し、選書を中心とした読書奨励の活動を行ってきた。平成27年度には、名称を「学生選書委員」から「図書館サポーター（さらりーず）」へ変更し、従来の選書活動を継続しつつ、読書奨励を目的とした図書館活動を企画・実行した。

平成30年度は、本庄キャンパス、鍋島キャンパスから合計12名の学生が参加し、学生選書ツアーを行った。

また、医学分館では随時図書館サポーターミーティングを行い、季節ごとの資料展示等を行った他、新入生向け図書館広報誌「さらり」の紙面作成やオープンキャンパスのイベント実施にも協力した。

2) 図書のテーマ別展示

所蔵図書の可視性を高め利活用を促進することを目的に、時期や季節に合わせた図書等のテーマ展示を行った。また、学部学生・院生が授業で作成した作品や報告書を展示し、関連する所蔵図書の展示を合わせて行った。

3) 学内会議での周知・検討

7月に大学運営連絡会にて、図書館から利用促進への協力依頼を行い、出席者による意見交換が行われた。また、3月の拡大役員懇談会にて、図書館を取り巻く環境が変化する中での図書館が提供するサービスのあり方について、意見交換が行われた。

（6）自学自習環境の整備

【資料】Ⅲ-5-1 面積・閲覧座席数・書架収容力、Ⅲ-5-2 図書館利用者用端末台数 Ⅲ-5-3 アクティブ・ラーニング・スペース、Ⅲ-5-4 グループ学習室の設備

本館

利用者の多様な学習スタイルに対応するため、グループ学習室 5 室、閲覧個室 4 室、マルチメディアコーナーを設置している。また、総合情報基盤センター内演習室と同じ環境で利用できる利用者用端末を 58 台、閲覧検索専用端末を 16 台設置している。

平成 30 年度には、2 階、3 階の閲覧机の一部に、個別学習スペース確保を目的として十字型の仕切りを設置した。

医学分館

利用者の多様な学習スタイルに対応するため、ビデオ・スライド室 2 室、LL 室、多目的学習室を設置している。多目的学習室には可動式の机・椅子を配置し、ラーニング・コモンズとして活用できるように整備している。また、総合情報基盤センター内演習室と同じ環境で利用できる利用者用端末を 60 台設置している。

(7) 広報

【資料】Ⅲ-1-13 図書館 Web ページのアクセス数

1) Web サイト

図書館 Web サイトを開設して、図書館利用に関する各種案内、利用者用オンライン蔵書目録 (OPAC : Online Public Access Catalog) 等のサービスを行っており、サイトの利用状況を把握し改善に役立てられるようにアクセス解析の仕組みを取り入れている。図書館 Web サイトへのデバイス毎のアクセス割合では、PC 以外 (モバイル) からのアクセスが年々増加しており、平成 30 年度は全体の 46% を占めている。次期の図書館システム改修時期に合わせ、PC 以外 (モバイル) のデバイスに対応した Web サイトを構築する予定である。

2) 広報誌

利用統計や図書館の活動報告等の広報・記録媒体として図書館報「ひかり野」を年 1 回刊行している。また、学生をターゲットにした情報誌「さらり」を年 1 回発行している。

3) 電子メールの配信等

教職員向けに講演会の開催案内、データベース・トライアルの案内、臨時休館等、図書館サービスの案内を電子メールにより配信している。学生向けには、学生ポータルシステムを使って電子メールの配信や、お知らせの掲示を行っている。

4) マスメディアの利用

市民に対する図書館利用の広報活動として、附属図書館の様々な企画について地元メディアを中心に掲載・放送を要請するとともに取材を積極的に受け入れている。

5) マスコットキャラクター

利用者に図書館を身近に感じてもらうことを目的に、佐賀大学内に生息する野鳥であるカササギをモチーフに作成したキャラクター (「らいぶくん」と「らりいちゃん」) を制作した。利用者に配布する情報誌「さらり」、葉やブックカバーにプリントされるかたちで活躍している。

6) SNS

ツイッターを利用し、新刊本の入荷、資料の配架案内、イベントなどの情報を発信している。また台風による臨時閉館など緊急情報を広く周知する場合にもツイッターで発信している。

(8) 評価及び課題

1) 評価する点

・資料の計画的収集

教員と図書館職員で構成された附属図書館選書専門委員会による審議に基づき、教員による推薦や図書館推薦、学生リクエスト等、多様な視点からの選書を行うとともに、年度計画に基づいて就職支援、外国人留学生及び海外派遣学生を支援する図書等の選書を関係部署と連携して行っており、限られた予算内で様々なニーズに対応した資料を整備していることは評価できる。

・資料の提供・活用

分館で看護学教育研究支援センター所属の看護師に医学・看護学の専門書の貸出及び文献複写取寄せサービスを提供していることは、地域医療を支える良質な医療人育成に繋がるものとして評価できる。

・情報リテラシー教育支援（図書館オリエンテーション）

本館では、初級コースの方法をアクティブ・ラーニング（能動的学習）の手法を取り入れた内容で実施し、学生から概ね好評を得ており、効果的な取組であったと判断できる。なお、講師担当が特定の職員に偏らないよう配慮し、業務負担の分散を図った。中級コースは、件数は少ないものの教員の要望に応え、テーマを設定して文献や新聞記事を調査するオリエンテーションを実施できたことも評価できる。

分館では、医学の専門分野に特化した内容とし、学部学生のほぼ全員の参加を得て実施していることは、評価できる。

・読書奨励

本館、分館共同で学生を募集して学生選書ツアーを行い、学生目線からの選書を行った。また、本館、分館ともに、所蔵図書の利活用促進を目的に図書等のテーマ展示を行った。本館ではこの他に、学部学生・院生の作品・報告書の展示や関連所蔵図書の展示を行った。学生の利用促進に向けて、これらのイベントを開催したことは評価できる。

・自学自習環境の整備

本館 2 階、3 階の閲覧机に十字型の仕切りを設置したことは、平成 29 年度の「学生生活実態調査」に示された利用者からの個別学習スペースへの要望に対応するものであり、評価できる。

・広報

SNS を使い積極的に図書館の様々な情報を発信したことや、学生への広報を強化するために、学生ポータルシステムを使って電子メールの配信やお知らせの掲示を行ったこと等、広報に努めた点は評価できる。

2) 課題

・貸出冊数

本館・分館の貸出冊数の減少について、調査と対策が必要である。

2 研究支援

(1) 研究用資料の収集

図書、学術雑誌その他の教育研究上必要な資料は附属図書館長の管理下に置き、附属図書館、学部、センター等に配置している。

資料の有効利用のため、附属図書館では図書、学術雑誌、電子ジャーナル等すべての資料を包含した蔵書データベースを維持管理し、所蔵・配置等の最新情報を Web 上で公開して利用の便を図っている。

本庄キャンパスの図書配置割合は、附属図書館約 80%、部局等約 20%である。学術雑誌は、附属図書館に農学・理工系学術雑誌を集中的に配架し、利用に供している。一部の学部等では、学部や学科等の単位で図書資料室を置き、専門領域に関する図書・雑誌をはじめ国内外の大学論集・紀要等を収集配架している。

鍋島キャンパスでは、旧医科大学時代から全図書、全雑誌を医学分館に集中配架し、教員、学生・院生の研究及び教育に供している。

(2) 電子ジャーナル

【資料】Ⅲ-2-1 電子ジャーナル導入状況、Ⅲ-2-2 電子ジャーナルアクセス数

平成 29 年度に電子ジャーナル等検討専門委員会、附属図書館運営委員会の議論により作成した契約方針に基づき、平成 31 年度の中央経費による契約分は平成 30 年度の契約内容を継続することとなった。

(3) 文献等データベース

【資料】Ⅲ-2-3 文献等データベースサービス

Ⅲ-2-4 文献等データベースのトライアル及び説明会開催状況

中央経費により契約しているスコーパスは、平成 29 年度の電子ジャーナル等検討専門委員会、附属図書館運営委員会の議論に基づき、平成 30 年度からの 3 年契約が決定している。

(4) 研究情報・文献情報の電子化

【資料】Ⅲ-2-5 佐賀大学機関リポジトリ登録数及び閲覧数

「佐賀大学機関リポジトリ」は紀要論文、博士論文を主として収集している。紀要論文の多くは、登録時の著作権処理について各部局との交渉を進め、包括許諾を得、刊行のたびに著作権処理をすることなく登録可能であり、継続して登録を進めている。

学会誌論文や商業誌論文についても機関リポジトリへの登録を進めるため、本庄キャンパスの学部等教員に協力依頼を行った。

(5) 評価及び課題

1) 評価する点

・電子ジャーナル

電子ジャーナル等検討専門委員会、附属図書館運営委員会の議論に基づき、中央経費により契約している電子ジャーナルの平成 31 年度の契約内容を決定したことは評価できる。

2) 課題

・電子ジャーナル

令和2年度の導入方針を決定する必要がある。

・研究情報・文献情報の電子化

紀要論文、博士論文だけでなく学会誌論文や商業誌論文についても機関リポジトリへの登録を進めるため、教員への周知を強化していく必要がある。

3 社会貢献

(1) 市民への情報サービス

【資料】Ⅲ-3-1 市民への貸出状況

1) 閲覧・貸出サービス

市民への閲覧・貸出サービスは、本館、分館ともに年齢制限や居住地制限なしで実施している。市民への資料貸出は、本館は館内資料のみ、医学分館は一般教養関係資料のみを対象に貸出を実施している。

2) 文献複写サービス

本館にはプリペイドカード式複写機及びコイン式複写機、分館にはコイン式複写機を導入しており、著作権の範囲内で複写サービスを行っている。

3) 検索サービス

本館では、一般市民も利用できる蔵書検索用端末を3台設置している。医学分館では、情報検索等を目的とした2台の端末が利用可能である。

4) 施設利用

本館では、学生教職員の利用に支障のない範囲でグループ学習室も利用できるようにしている。

5) 佐賀県内図書館等との文献複写・相互貸借サービス

本館・医学分館ともに公共図書館等からの依頼に応じ、文献複写・相互貸借サービスを行っている。医学分館は近隣の病院図書室等からの依頼にも応じている。

相互貸借は『佐賀県公共図書館と佐賀県大学図書館間の相互貸借規程』に基づき運用している。

6) 佐賀県内図書館横断検索システム

佐賀県立図書館、県内の市町村立図書館及び県内の大学図書館の所蔵図書を横断的に検索できる佐賀県内図書館横断検索システムに参加し、県内の図書館と一体となった地域への蔵書検索サービスの提供を行っている。

(2) 公開講座(講演会、展示会)

【資料】Ⅲ-3-2 図書館月間講演会 Ⅲ-3-3 図書館月間展示会

附属図書館では、市民に生涯学習の場を提供することを主目的として、毎年11月を「図書館月間」と称して、講演会、貴重資料展示等を行っている。

市民への広報は、マスコミへの情報提供、県内の公共図書館やテーマに合致する関係機関等へのポスター貼付・チラシ配布による案内の依頼、過去の講演会参加者への案内文書の送付等で行っている。

1) 図書館月間

①講演会

大学で実施する「来てみんなしゃい！佐賀大学へ」の企画として、小城鍋島文庫研究会、地域学歴史文化研究センター、附属図書館が共催し、「逢いに来んしゃい！佐賀大学の宝の数々に」をテーマに、貴重資料所蔵コレクションをわかりやすく紹介する講演会や関連のイベントを開催した。

②資料展示

講演会のテーマに沿った展示を行った。

(3) 地域資料の収集

【資料】Ⅲ-3-4 附属図書館所蔵コレクション

地域学歴史文化研究センターや総合情報基盤センターと連携しながら、小城鍋島文庫資料や市場直次郎コレクションの電子化を行い、ホームページで公開している。

(4) 貴重資料の利用

【資料】Ⅲ-3-5 貴重資料の利用

1) 貸出

毎年、地域学歴史文化研究センターと佐賀県小城市教育委員会の共催で開催される企画展等に貴重資料を貸し出している。

平成30年度は、以下のとおり貴重資料の提供を行った。

- ・地域学歴史文化研究センターと佐賀大学美術館共催の展示会「佐賀大学所蔵名品展「幕末の佐賀と学問－維新への道－」」に、小城鍋島文庫の「柴田介次郎上海談聞書」、「人工体普録」、「新論」外5点および市場直次郎コレクションの「落雁図」、「有隣」、「六人部是香和歌」、「柳松山水図」、「西行柳図」、「鍋島直大和歌」、「柴田花守色紙」外23点を貸し出した。
- ・佐賀市佐野常民記念館と佐野常民顕彰会共催の展示会「明治維新150年企画展「緒方洪庵と佐野常民～唯おのれをすてて、人を救はんことを希ふべし～」」に、小城鍋島文庫の「大庭雪斎コレクション和蘭文典・上下」を貸し出した。
- ・地域学歴史文化研究センターと小城市教育委員会共催の展示会「千葉の城・鍋島の城－小城武士の本拠を探る」に小城鍋島文庫の「肥陽軍記」、「御家中古書佐嘉差出写」、「持永系図」、「持永氏略系」、「鴨打氏系図」、「直茂公御年譜」、「直能公御年譜」を貸し出した。
- ・佐賀大学美術館主催の展示会「佐賀藩10代藩主 鍋島直正展」に市場直次郎コレクションの「古川松根和歌短冊」、「古川松根落雁図」、「古川松根大黒天図」、「古川松根西行柳図」を貸し出した。

2) 画像データの利用

地域学歴史文化研究センターと大学共同利用機関法人人間文化機構国立歴史民俗博物館の協力協定に基づく研究成果である「小城藩日記データベース」を、附属図書館ホームページから公開した。

(5) 実習・研修生の受け入れ

実習・研修生の受け入れを行った。貸出などのカウンター業務や配架業務だけでなく、利用者の立場からは見えにくい図書の発注・受入・目録・装備といったバックヤードの業務の体験も盛り込み、図書館業務の全体を見ることができた内容とした。

実績

図書館実習：大学生1名（8月20日（月）～8月31日（金））

教員研修（企業・福祉施設等体験研修）：教諭2名（8月20日（月）、8月22日（水））

職場体験：中学生3名（8月28日（火）～8月29日（水））

インターンシップ：大学生1名（9月18日（火）～9月21日（金））

(6) 評価及び課題

1) 評価する点

・市民への情報サービス

本館、医学分館ともに市民への閲覧・貸出サービスを年齢や居住地制限なしで実施していることは評価できる。また、県内図書館間の相互貸借システムや横断検索システムに参画することにより市民へのサービスを行っていることは評価できる。

・公開講座(セミナー、講演会、展示会)

地域住民の生涯学習の場として「図書館月間」を毎年実施しており、平成 30 年度は、附属図書館所蔵の貴重資料に関する講演会等で、71 名の参加者があったことは評価できる。

・画像データの利用

「小城藩日記」の画像データとリンクする、地域学歴史文化研究センターの研究成果である「小城藩日記データベース」を附属図書館ホームページから公開したことは評価できる。

2) 課題

・貴重資料の利用

地域学歴史文化研究センター等、学内外の研究施設・研究機関等へ協力を仰ぎ、所蔵コレクションの利活用を進めていく。また、貴重資料及び資料保存についての識見を持つ職員育成を行っていく必要がある。

4 組織運営

(1) 組織の編成・管理運営

【資料】Ⅲ-4-1 附属図書館組織・機構図

1) 館長・副館長

附属図書館は、平成 28 年 4 月に現在の館長、副館長制で諸般の課題解決に当たることとした。

図書館長は、附属図書館の業務を掌理し、附属図書館に設置した各種委員会の委員長として審議の取りまとめを行うとともに、学内の教育研究評議会等の委員として大学の管理運営に参画している。

2) 運営委員会

①附属図書館運営委員会

平成 16 年 4 月の法人化後、佐賀大学図書館規則第 5 条第 1 項の規定に基づき、佐賀大学附属図書館運営委員会を設置した。医学分館には、佐賀大学図書館規則第 6 条第 2 項に基づき附属図書館医学分館運営委員会を設置した。

佐賀大学附属図書館運営委員会は、附属図書館の運営方針、諸規程の制定・改廃、予算等に関する重要事項を審議する組織で、附属図書館長（委員長）、副館長、及び各学部から選出された教員 6 人、総合情報基盤センター長、全学教育機構副機構長、総括担当理事の合計 11 人とオブザーバーとして参加する学術研究協力部長で構成されている。また、附属図書館運営委員会の下に、附属図書館運営委員会から付託された事項の審議を行う専門委員会を設置している。

②附属図書館医学分館運営委員会

附属図書館医学分館運営委員会は医学分館の運営、諸規程の制定・改廃、予算等に関する事項を審議する組織で、副館長、医学部選出の附属図書館運営委員、医学部等鍋島地区の教員 4 人の合計 6 人で構成されている。

3) 専門委員会

①選書専門委員会

選書専門委員会は蔵書整備、学生用図書の収集、その他の図書館資料の選定収集に関することを掌る。

②貴重資料・地域貢献専門委員会

貴重資料・地域貢献専門委員会は、附属図書館所蔵の貴重資料の保存・公開・展示等及び附属図書館の地域貢献事業に関することを掌る。

③評価専門委員会

附属図書館の自己評価、中期目標・中期計画評価及び認証評価等に関することを掌る。

④電子ジャーナル等検討専門委員会

電子ジャーナル及び文献データベースの契約内容、経費負担の在り方等に関することを掌る。

4) 事務組織

【資料】Ⅲ-4-1 附属図書館組織・機構図 Ⅲ-4-2 附属図書館職員数

附属図書館の事務組織体制は、法人化後、人件費等管理運営経費の抑制及び効率的な大学運営

による事務組織再編等により、平成30年4月現在では、情報図書館課長、副課長、総務担当、図書・雑誌担当、利用サービス担当及び医学分館担当の体制となっている。

5) 事務処理の効率化

研究用資料の購入依頼受付を Web ベースのシステムで行い図書館システムにデータとして取り込み、購入依頼受付から発注処理、発注状況の管理等を合理化している。また研究用資料の購入依頼時に必要となる財源の管理を、財務会計システムと図書館システムを連携させることにより効率化している。

また、一時期に大量発注する資料は、目録データ入力と図書 ID ラベル貼付等を済ませた状態で納品させて、図書館での整理業務の効率化と整理期間の迅速化を実現している。さらに、他大学の紀要論文のうち、本文が機関リポジトリ及び CiNii で公開されているものは保存せず、書架狭隘化への対応及び業務の削減を図っている。

6) 危機管理

本館で例年行っている附属図書館独自の防災訓練を、平成31年2月28日（木）に①DVD教材視聴受講、②消防署の方の講話、③机上訓練というプログラムで実施した。訓練には図書館職員14名が参加し、職員の災害時・日常の防災担当内容や館内消防設備の確認を念入りに行い、防災意識を高めた。最後には訓練を通して学んだことをもとに、次年度の防災訓練に向けてグループディスカッションを行い、効果的な訓練内容や過去の防災訓練で有意義であったものなどの意見を出し合った。

7) 職員研修

【資料】Ⅲ-4-3 職員研修状況

職員研修について、従来は常勤職員のみを受講対象としていたが、現在は非常勤職員にも参加機会を提供している。

平成28年度には職員研修のあり方について検討を行い、県内図書館で実施されている研修に積極的に参加することを決定し、平成30年度は佐賀県公共図書館研修会に計4回、延べで合計10名が参加した。

(2) 財務

1) 予算

【資料】Ⅲ-4-4 図書館経費 Ⅲ-4-5 図書館資料費

法人化後は毎年大学運営経費が1%削減されており、業務効率化による人件費削減、資料購入時の契約方法の見直しによる値引き率の拡大、事務用品、光熱水量費等の節約など、学生用図書購入等に必要な資料費への影響を抑える努力をしている。

平成30年度の配当額は、一般運営経費66,471千円、学長経費(電子ジャーナル経費)50,000千円であった。

本館

平成30年度の当初配分は、48,305千円である。この中から図書館維持費として31,780千円、図書購入費として16,525千円を充てた。また、電子ジャーナルの不足分として、科学研究費補助金等の間接経費から25,000千円の補填額があった。

医学分館

平成 30 年度の当初配分額は、18,166 千円である。この中から図書館維持費として 13,666 千円、図書購入費として 4,500 千円を充てた。

なお、医学分館は、法人化時の合意に基づき医学部及び附属病院からも別途図書購入費の配分を受けている。

2) 決算

【資料】Ⅲ-4-4 図書館経費 Ⅲ-4-5 図書館資料費

本館

支出内容を精査し、適切に予算を執行した。

医学分館

支出内容を精査し、適切に予算を執行した。

(3) 評価及び課題

1) 評価する点

・組織の編成・管理運営

常勤職員のみでなく、非常勤職員にも職員研修への参加機会を提供していることは評価できる。また、非常勤職員も含めて県立図書館等の研修に積極的に参加していることは評価できる。

・財務

限られた予算の中で、教員や関係部署と連携しての選書等、様々なニーズに対応する取り組みを行いながら図書の整備を行ったことは評価できる。

5 施設・設備

(1) 施設・設備の整備状況

1) 施設・設備

**【資料】 Ⅲ-5-1 面積・閲覧座席数・書架収容力、Ⅲ-5-2 図書館利用者用端末台数
Ⅲ-5-3 アクティブ・ラーニング・スペース、Ⅲ-5-4 グループ学習室の設備**

図書館総面積は本館 5,332 m²、旧館 332 m²、医学分館 1,769 m² 合計 7,433 m²である。

閲覧座席数は本館 635 席、医学分館 192 席、合計 827 席である。本館（平成元年 3 月竣工）、医学分館（昭和 55 年 3 月竣工）とも竣工後建物及び設備の増築、大規模改修は行っていないが、ともに書架スペース以外の閲覧スペースを利用しやすく、明るい場所に置くなど基本設計において利用者への配慮を行っている。

また、利用者に快適な環境を提供するため、夏季の冷房、冬季の暖房運転の維持と設備、物品の充実を図っている。また全館を徹底した清掃を行い、快適な学習環境を提供することに努めている。

本館では、平成 30 年度に 3 階、4 階のトイレ改修を行い、利用環境を改善した。

安全面では、本館、医学分館とも館内の要所に防犯カメラを設置している。防犯カメラは附属図書館運営委員会が定めた「佐賀大学附属図書館防犯カメラ運用内規」に基づいて運用している。なお、医学分館では、セキュリティ対策として緊急通報ボタンを設置している。

バリアフリー面では、本館・医学分館ともに車椅子対応のためのスロープ及びトイレを設置し、エレベータにはマルチビームドアセンサーを設置している。また、日本語に不慣れな利用者のために、館内サインに日本語と英語を併記し、一部にはピクトサインを採用している。

2) 書架・書庫

【資料】 Ⅲ-5-1 面積・閲覧座席数・書架収容力

本館、医学分館ともに収蔵力の不足は深刻な問題である。本館では配架できない図書資料を箱詰めにしており、教育・研究を支援する上でかなり支障をきたしているうえ、防災上からも危険であることから、配架スペースの確保のため、計画的な除籍を実施している。

(2) 施設、設備等の利用状況

**【資料】 Ⅲ-5-5 各室使用状況（本館）、Ⅲ-5-6 グループ学習スペース及びグループ学習室 5
入室状況（本館）、Ⅲ-5-7 会議室利用状況（本館）**

1) 利用者用施設・設備

本館

本館において 3 階、4 階のトイレ改修を行った。

平成 30 年度から新任教員研修会において図書館利用について説明を行っており、この中で図書館の施設・設備等の紹介を行い、利活用を依頼した。

「学内営繕事業要求書」において、改修等の要望を提出した。

医学分館

「施設整備事業要求書」において、全体改修の要望を提出した。

2) その他の施設・設備

- ・ 会議室（本館 4 階）

本館の会議室は、本庄キャンパスのほぼ中心に位置し、収容人数が 60 人で使いやすい規模の部屋であるため、学内の各種委員会や学部主催の公開講座等で利用されている。

(3) 評価及び課題

1) 評価する点

- ・ **施設、設備等の整備状況**

本館において 3 階、4 階のトイレ改修を行い、利用環境を改善したことは評価できる。

- ・ **施設、設備等の利用状況**

新任教員研修会で図書館利用についての説明を行い、施設・設備等の紹介を行ったことは評価できる。

2) 課題

- ・ **老朽化への対応**

本館

平成 30 年 2 月に空調配管の水漏れ事故が発生した。事務室内のため幸い資料への被害はなかったが、今後どこで同様のことが起きてもおかしくない状況にあり、配管の改修が喫緊の課題となっている。

医学分館

建築後 38 年が経過し、改修の必要な個所が多くみられる。応急的な改修を行うことと、全体改修に向けて施設整備費の要求を継続していくことが必要である。

資料

Ⅱ 概要

Ⅱ-1 蔵書数

① 図書

(単位：冊)

年度	本館			医学分館			合計
	和	洋	計	和	洋	計	
25	416,543	176,443	592,986	68,917	46,385	115,302	708,288
26	417,698	177,125	594,823	69,706	46,316	116,022	710,845
27	421,356	177,487	598,843	71,195	46,683	117,878	716,721
28	416,531	176,309	592,840	69,290	46,763	116,053	708,893
29	416,902	174,892	591,794	68,521	46,140	114,661	706,455
30	418,859	174,547	593,406	69,167	46,282	115,449	708,855

【参考】所蔵図書冊数（『平成30年度学術情報基盤実態調査結果報告』）

国立大学	大学	和図書（冊）	洋図書（冊）	点字（種）	計	一大学平均（冊）
B（5～7学部）	20	12,059,579	5,574,398	293	17,634,270	881,714

② 雑誌

(単位：種)

年度	本館			医学分館			合計
	和	洋	計	和	洋	計	
25	6,522	2,972	9,494	1,233	1,117	2,350	11,844
26	6,531	2,974	9,505	1,243	1,110	2,353	11,858
27	6,539	2,977	9,516	1,236	1,119	2,355	11,871
28	6,541	2,977	9,518	1,243	1,119	2,362	11,880
29	6,541	2,977	9,518	1,239	1,119	2,358	11,876
30	6,544	2,977	9,521	1,240	1,120	2,360	11,881

【参考】所蔵雑誌種類数（『平成30年度学術情報基盤実態調査結果報告』）

国立大学	大学	和雑誌（種）	洋雑誌（種）	点字（種）	計	一大学平均（種）
B（5～7学部）	20	238,532	146,345	2	384,879	19,244

③ 視聴覚資料 3月31日現在（単位：タイトル）

年度	本館	医学分館	計
25	1,787	1,713	3,500
26	1,788	1,748	3,536
27	1,788	1,766	3,554
28	1,788	902	2,690
29	643	783	1,182
30	637	782	1,419

【参考】視聴覚資料所蔵数（『平成30年度学術情報基盤実態調査結果報告』）

国立大学	大学数	全所蔵数（タイトル）	1大学平均（タイトル）
B（5～7学部）	20	127,116	6,356

Ⅱ-2 図書受入冊数 単位：冊

年度	本館	医学分館	計
25	14,897	2,246	17,143
26	14,178	2,273	16,451
27	13,637	2,237	15,874
28	10,018	1,796	11,814
29	13,762	1,190	14,952
30	11,206	788	11,994

Ⅱ-3 雑誌受入種類数 単位：種

年度	本館	医学分館	計
25	3,336	475	3,811
26	3,234	487	3,721
27	3,205	473	3,678
28	3,093	478	3,571
29	2,854	477	3,331
30	2,781	480	3,261

Ⅲ 領域別評価

1 教育支援

Ⅲ-1-1 利用対象者数 単位：人

年度	学生	教職員	計
25	7,118	2,633	9,751
26	7,081	2,755	9,836
27	7,002	2,704	9,706
28	6,989	2,668	9,657
29	6,910	2,536	9,446
30	6,807	2,502	9,309

(出典) 図書館調査 (日本図書館協会)

Ⅲ-1-2 電子書籍導入状況

①購入パッケージ

年 度	EBSCOhost Ebook collection	Maruzen e-book Library
25	○	○
26	○	○
27	○	○
28	—	○
29	—	○
30	—	○

②種類数

単位：タイトル

年度	国内	国外	計
25	888	17,268	18,156
26	1,093	17,272	18,365
27	1,658	17,272	18,930
28	1,756	17,272	19,028
29	1,855	17,272	19,127
30	1,874	17,272	19,146

【参考】所蔵電子書籍種類数（『平成30年度学術情報基盤実態調査結果報告』） 単位：タイトル

国立大学	大学数	国内	国外	計	一大学平均		
					国内	国外	計
B (5～7学部)	20	22,990	348,192	371,182	1,150	17,410	18,559

Ⅲ-1-3 電子書籍アクセス数

単位：件

年 度	EBSCOhost Ebook collection	Maruzene-book Library
25	434	370
26	627	748
27	313	585
28	284	582
29	90	469
30	97	607

Ⅲ-1-4 図書除籍冊数

単位：冊

年度	本館	医学分館	計
25	5,636	0	5,636
26	4,159	1,417	5,576
27	830	0	830
28	8,902	3,483	12,385
29	5,170	2,525	7,695
30	2,342	0	2,342

Ⅲ-1-5 開館時間

①本館

学 期	曜 日	時 間	備 考
授業期 (試験期間含む)	月～金曜日	8:30 ～ 21:10	休館日) 2月,3月,8月の第4木 曜日(祝日の場合は開 館する) 夏季一斉休業日 年末年始
	土曜日・日曜日・祝日	10:00 ～ 19:00	
休業期 (授業期以外)	月～金曜日	8:30 ～ 20:10	
	土曜日・日曜日・祝日	10:00 ～ 19:00	

②医学分館

学 期	曜 日	早朝（無 人）開館	有人開館	備 考
授業期	月～金曜日	6:00 ～ 8:30	8:30 ～ 21:00	(休館日) 休業期の土・日曜日 ・祝日 年末年始 早朝開館は事前に登録 申請した学内所属の教 職員および学生のみ利 用可能。
	土・日曜日・祝 日	閉館	10:30 ～ 18:30	
休業期 (授業期以外)	月～金曜日	6:00 ～ 8:30	8:30 ～ 21:00	
	土・日曜日・祝 日	閉館	閉館	

Ⅲ-1-6 年間開館日数等

①本館

年度	開館日数（日）				開館時間数（時間）		
	平日	土曜	休日	計	時間内	時間外	計
25	234	49	61	344	1,989	1,896	3,885
26	235	47	62	344	1,997	1,896	3,893
27	215	44	60	319	1,828	1,767	3,595
28	237	46	63	346	2,015	1,864	3,879
29	236	46	60	342	2,006	1,855	3,861
30	236	47	63	346	2,015	1,864	3,879

(注) H28. 4. 16～24 の期間は、熊本地震の余波を考慮して 17:00 で閉館。

②医学分館

年度	開館日数（日）				開館時間数（時間）		
	平日	土曜	休日	計	時間内	時間外	計
25	241	45	57	343	2,008	4,470	6,478
26	244	45	56	345	2,074	1,784	3,858
27	242	46	61	349	2,048	1,824	3,872
28	240	46	63	349	2,100	2,402	4,502
29	240	48	58	346	3,061	2,573	4,634
30	241	45	61	347	2,051	2,912	4,963

(注) H25 と H28（10月11日以降の平日のみ）は、時間外開館時間は夜間の無人開館時間を含む。

Ⅲ-1-7 入館者数

①本館

年 度	開館日数（日）	時間内（人）	時間外（人）	合 計（人）	1日平均（人）
25	344	201,282	102,784	304,066	884
26	344	193,879	102,248	296,127	861
27	319	176,217	93,988	270,205	847
28	346	176,097	88,414	264,511	764
29	342	187,661	92,688	280,349	820
30	346	172,779	89,802	262,581	759

②医学分館

年 度	開館日数（日）	時間内（人）	時間外（人）	合 計（人）	1日平均（人）
25	343	118,477	100,768	219,245	639
26	345	109,863	59,860	169,723	492
27	349	117,796	108,991	226,787	650
28	349	116,527	62,770	179,297	514
29	346	126,206	64,160	190,366	550
30	347	142,660	71,087	213,747	616

Ⅲ-1-8 貸出条件

①本館

種 類		対 象	期 間	冊 数
個人貸出	学内利用者	学部学生 研究生・科目等履修 生等	図書：2週間 雑誌：1週間	図書(雑誌を含む。) 10冊
		大学院生 教職員・名誉教授等	図書：4週間 雑誌：1週間	図書(雑誌を含む。) 10冊
	学外利用者	図書：2週間 雑誌：1週間	図書(雑誌を含む。) 5冊	
研究室貸出		教員	1年間	当該予算で購入したもので必要とする冊数
特別貸出	休業期	学内利用者	休業期間終了日の1週間後まで	個人貸出と同条件
	卒論等	学部学生・大学院生	8週間	図書 5冊
	実習	学部学生	実習期間内	図書 5冊

②医学分館

種 類		対 象	期 間	冊 数
個人貸出		学生・教職員等学内利用者	2週間	図書 5冊
			3日	小池文庫 3冊
3日	雑誌 3冊			
3日	視聴覚資料 3点			
	学外利用者		2週間	図書 3冊 (教養図書に限る)
研究室貸出		教員	1年間	当該予算で購入したもので必要とする冊数
特別貸出	休業期	学生等	休業期間終了日の翌日まで	図書 3冊

Ⅲ-1-9 館外貸出状況

①本館

年度	貸出者数 (人)				貸出冊数 (冊)			
	学生	教職員	一般	計	学生	教職員	一般	計
25	23,094	1,567	718	25,379	39,257	2,893	1,693	43,843
26	20,145	1,364	678	22,187	36,996	3,022	1,880	41,898
27	19,994	1,134	651	21,799	36,760	2,444	1,828	41,032
28	14,800	1,109	539	16,448	28,190	2,381	1,294	31,865
29	13,820	950	526	15,296	26,873	2,164	1,526	30,563
30	13,424	948	659	15,031	27,206	2,213	1,822	31,241

②医学分館

年度	貸出者数 (人)				貸出冊数 (冊)			
	学生	教職員	一般	計	学生	教職員	一般	計
25	7,271	1,045	19	8,335	11,415	1,794	47	13,256
26	7,633	1,176	28	8,837	10,690	2,920	49	13,659
27	10,134	1,851	39	12,024	11,683	3,240	41	14,964
28	7,952	1,395	30	9,377	12,089	2,911	116	15,116
29	6,388	1,447	32	7,867	10,385	3,968	70	14,353
30	6,286	1,366	10	7,662	11,190	3,054	206	14,450

【参考】館外貸出冊数（一館平均）（『平成30年度学術情報基盤実態調査結果報告』） 単位：冊

国立大学	教職員	学 生	学外者	計
B (5~7 学部)	2,892	25,434	1,627	29,953

Ⅲ-1-10 オリエンテーション実績（本館）

年度	初級コース		中級コース	
	回数 (回)	人数 (人)	回数 (回)	人数 (人)
25	31	934	12	241
26	31	860	10	191
27	33	929	12	195
28	26	924	12	213
29	27	928	13	207
30	29	1,015	5	54

Ⅲ-1-11 図書館間相互貸借冊数

単位：冊

年度	本 館		医学分館	
	借 受	貸 出	借 受	貸 出
25	293	210	62	88
26	255	143	50	54
27	203	185	16	8
28	139	175	10	10
29	141	198	8	13
30	166	115	5	10

Ⅲ-1-12 図書館間の文献複写件数

単位：件

年度	本館		医学分館	
	依頼	受付	依頼	受付
25	965	352	1,381	1,734
26	1,078	331	1,519	1,435
27	916	384	1,413	1,048
28	696	250	1,364	955
29	585	124	1,097	875
30	522	157	933	651

【参考】相互協力件数（一館平均）（『平成30年度学術情報基盤実態調査結果報告』）

国立大学	相互貸借		文献複写	
	借受	貸出	依頼	受付
B（5～7学部）	165	225	842	871

Ⅲ-1-13 図書館Web ページのアクセス数

年度	アクセス数（回）	デバイス別アクセス割合（%）	
		PC	mobile, tablet
25	121,141	83	17
26	118,974	76	24
27	122,175	71	29
28	99,119	63	37
29	90,878	60	40
30	87,177	54	46

2 研究支援

Ⅲ-2-1 電子ジャーナル導入状況

①購入パッケージ

年度	Elsevier Science Direct	Springer LINK	Wiley	Nature	EBSCO
25	○	○	○	○	
26	○	○	○	○	
27	○	○	○	○	
28	○	○	○	○	○
29	○	○		○	○
30	○	○		○	

②種類数

年度	種類数（種）
25	11,642
26	11,884
27	12,045
28	10,704
29	10,238
30	5,398

【参考】所蔵電子ジャーナル種類数（『平成 30 年度学術情報基盤実態調査結果報告』）

国立大学	大学数	電子ジャーナル（種）	一大学平均（種）
B（5～7 学部）	20	186,950	9,348

Ⅲ-2-2 電子ジャーナルアクセス数

年 度	Elsevier Science Direct	Springer LINK	Wiley	Nature	EBSCO
25	91,206	19,398	26,003	3,903	
26	94,272	16,867	28,560	2,994	
27	100,463	17,343	28,854	2,392	
28	110,878	18,583		2,786	2,092
29	115,575	18,937		2,824	1,172
30	112,041	22,012		3,707	

Ⅲ-2-3 文献等データベースサービス

国 内		国 外	
名称	利用数（件）	名称	利用数（件）
聞蔵Ⅱビジュアル	1,720	日経 BP 記事検索サービス*	3,931
ヨミダス歴史館	3,287	Scopus	28,737
日経テレコン 21	201,358	Ovid (MEDLINE、EBMR)	4,851
ジャパンナレッジ・プラス N	3,710	CINAHL	524
医中誌 Web	61,528	UpToDate	3,414
CiNii *	53,842		

* 本文では電子ジャーナル種として集計しているもの

Ⅲ-2-4 文献等データベースのトライアル及び説明会開催状況

年度	トライアル	説明会
25	ebrary	Science Direct オンライン講習会 Scopus オンライン講習会 EBSCO host オンライン講習会 Scifinder Academic
26	ICM(世界助産師連盟データベース)	Scopus, SciFinder Academic Scopus オンライン講習会 EBSCO host オンライン講習会
27	実施せず	SciFinder Academic Scopus オンライン講習会 EBSCO host オンライン講習会
28	実施せず	SciFinder Academic 日経テレコン
29	実施せず	SciFinder Academic 日経テレコン Ovid 版 Medline 利用講習会 Up to Date 利用講習会
30	実施せず	日経テレコン Up to Date 利用講習会

Ⅲ-2-5 佐賀大学機関リポジトリ登録数及び閲覧数(平成30年度)

単位：件

コンテンツの種類	登録数		閲覧数	
	一次情報	二次情報	アクセス数	ダウンロード数
紀要論文	3,532	7,209	462,363	378,267
博士論文	301	1,775	96,136	88,621
雑誌論文 他	510	1,918	14,210	7,071
合計	4,343	10,902	572,709	473,959

【参考】機関リポジトリコンテンツ数(『平成30年度学術情報基盤実態調査結果報告』)

(国立大学 B(5~7学部)平均)

単位：件

コンテンツの種類	一次情報	二次情報	アクセス数	ダウンロード数
学術雑誌論文	975	3,923	283,414	390,742
学位論文	672	730		
紀要論文	3,675	927		
会議発表論文	215	5,090		
会議発表資料	58	3		
図書	105	322		
テクニカルレポート	26	14		
研究報告書	400	98		
一般雑誌記事	40	416		
プレプリント	7	2		
教材	6	1		
講義	0	0		
データ・データベース	48	1		
ソフトウェア	4	1		
その他	1,372	4,581		
計	7,602	16,107	283,414	390,742

3 社会貢献

Ⅲ-3-1 市民への貸出状況

年度	本館		医学分館	
	貸出者数(人)	貸出冊数(冊)	貸出者数(人)	貸出冊数(冊)
25	718	1,693	19	47
26	678	1,880	28	49
27	651	1,828	39	41
28	539	1,294	30	38
29	526	1,526	32	70
30	659	1,822	10	206

Ⅲ-3-2 図書館月間 講演会

年度	演題	講師
25	ビブリオバトルの勧め ―社会で役立つ“プレゼン能力”を学ぼう―	中山功一 (佐賀大学工学系研究科准教授)
26	有田磁器の創始と発展 ―400年の歴史をたどる―	大橋康二 (元佐賀県立九州陶磁文化館館長)

27	日本電信の祖 石丸安世	多久島澄子 (幕末佐賀研究会会員)
	佐賀藩と電信機	長野 暉 (佐賀大学名誉教授)
28	大学発オリジナル清酒「悠々知酔」を学生が考え、そして醸す!	小林元太 (佐賀大学農学部教授)
	国産初のグレープフルーツ‘さがんルビー’の育成と産地形成	駒井史訓 (佐賀大学農学部附属アグリ創生教育研究センター教授)
	大学の技術開発を活用した農業ビジネス展開について	永原辰哉 (株式会社農研堂代表取締役)
29	幕末佐賀藩を支えたもの	伊藤昭弘 (佐賀大学地域学歴史文化研究センター副センター長・准教授)
	新政府と佐賀藩	三ツ松誠 (佐賀大学地域学歴史文化研究センター講師)
30	小城藩の蔵書を充実させた夭折の天才—鍋島直嵩	白石良夫 (元佐賀大学教授)
	小城藩主がもっていた『十帖源氏』著者書入本	中尾友香梨 (佐賀大学全学教育機構准教授)

Ⅲ-3-3 図書館月間展示会

年度	展示名	展示内容
25	ビブリオバトルお奨め本	ビブリオバトル首都決戦の大学予選会での発表本及び図書館開催のミニビブリオバトルのお奨め本などを展示した。
26	有田焼関連図書	講演会「有田磁器の創始と発展 —400年の歴史をたどる—」に合わせて、書籍を展示した。
27	幕末佐賀藩の科学技術に関する資料	講演会「日本電信の祖 石丸安世」及び「佐賀藩と電信機」に合わせ、資料・書籍を展示した。
28	佐賀大学生生まれの食品に関する資料	佐賀大学で研究・開発した食品から生まれた製品、関連資料等を展示した。
29	小城鍋島文庫、市場直次郎コレクションから講演内容に関する資料	講演会「幕末佐賀藩を支えたもの」及び「新政府と佐賀藩」に合わせ、資料・書籍を展示した。
30	小城鍋島文庫から講演内容に関する資料	講演会「小城藩の蔵書を充実させた夭折の天才—鍋島直嵩」及び「小城藩主がもっていた『十帖源氏』著者書入本」に合わせ、資料・書籍を展示した。

Ⅲ-3-4 附属図書館所蔵コレクション

	コレクション名	内 容
地域資料コレクション	小城鍋島文庫	佐賀鍋島の支藩、小城の鍋島家に伝えられた貴重な図書・文書で、当主鍋島直浩氏のご厚意と西島製作所原田龍平氏のご配慮により、昭和 35 年に寄贈され、昭和 38 年には小城町教育委員会から小城鍋島家旧蔵漢籍が寄贈されたもので、1 万点を超える国書、漢籍、歴史史料からなる。
	唐津藩庄屋文書	唐津藩の庄屋史料を中心に地方（じかた）文書を含む約 1,000 点の近世中・後期から明治にかけての庄屋史料である。
	深江文書	深江家に伝わる美濃派俳諧の資料で、深江汨央氏より平成 5 年に寄贈されたものであり、江戸中期から明治初期に佐賀で編まれた 49 点の俳書である。
	江藤新平関係文書	明治維新の政治家、江藤新平に関する資料をマイクロフィルム化したもので、佐賀県立図書館に所蔵されている 1,400 点余の資料と、江藤家に秘蔵されていた未公開資料 130 点を含んでいる。明治初期の政治・法制成立課程の研究や江藤研究の貴重な資料である。
	佐賀地方裁判所資料	佐賀地方裁判所より、平成 11 年に寄贈を受けたもので、明治初期から昭和初期に至るまでの裁判制度に関する資料であり、佐賀地方に限定されているとはいえ、明治初期から昭和初期までの地方における裁判の全体像を知ることができる貴重な資料である。
	市場直次郎コレクション	佐賀や北九州の近世文学・民俗学研究で知られた故市場直次郎氏が蒐集した、扇面・色紙・和書・掛軸等 1,900 点余のコレクションを 3 期にわたって購入した。コレクション中、近世の文人が描いた書画の扇面は 502 点にも及び、全国でも他に例がないものである。 (第 1 期分のみ文部科学省大型コレクション経費 平成 13 年度採択)
	洋学資料コレクション	我が国洋学発達史上、学術的価値のある資料である。 「和蘭字彙」、「草木花実写真図」、「西遊旅譚」、「蘭学逡」、「和蘭産物考」、「蘭学階梯」、「和蘭薬鏡」 (岡本基金-教育研究助成奨学寄附金)
	大内文庫	平成 15 年 9 月に亡くなられた、鹿児島大学名誉教授・文学博士、大内初夫氏が収集された俳諧書類で、江戸時代（元禄期）から明治中期にかけての俳諧書 298 点 445 冊、俳諧書複製本 23 点、軸物 18 点、器財（文台）1 点を内容とする。 (岡本基金-教育研究助成奨学寄附金)
佐賀新聞 DVD	明治 17 年の創刊号から平成 19 年までの記事を図書館内の専用パソコンで見ることができ、日付検索の機能を持ち、紙面全体や個別の記事を表示、印刷することができる。 (学長経費-予備費)	
研究用コレクション	東寺百合文書	東京大学史料編纂所が京都教王護国寺（通称東寺）旧蔵文書の影写本をマイクロフィルム化したもの。文書には、鎌倉・室町時代の東寺関係諸記録約 1,000 点を含み、東寺の寺院経営や寺院の荘園に関する寺院経済関係の記録が豊富である。 (文部科学省大型コレクション経費 昭和 56 年度採択)
	バイルシュタイン有機化学全書	Beilsteins Handbuch der Organischen Chemie. 炭素化合物の物理的、化学的諸特性に関する百科事典 (文部科学省大型コレクション経費 昭和 62 年度採択)
	国立国会図書館所蔵 明治期産業翻訳書集成	明治期のお雇い外国人官僚技術者、知識人の外国事情、学術研究書などの翻訳と報告をマイクロフィルム化したもの。万国博覧会編、農業編、工業編、産業史編に分かれている。 (文部科学省大型コレクション経費 平成元年度採択)
	1990 世界農林業センサス農業集落カード	農業の国勢調査ともいふべき農林業センサスの調査結果の一つで、農村地域の最小単位である全国約 13 万 4 千の農業集落について調査結果を整理統合した資料。 (文部科学省大型コレクション経費 平成元年度採択)

Ⅲ-3-5 貴重資料の利用

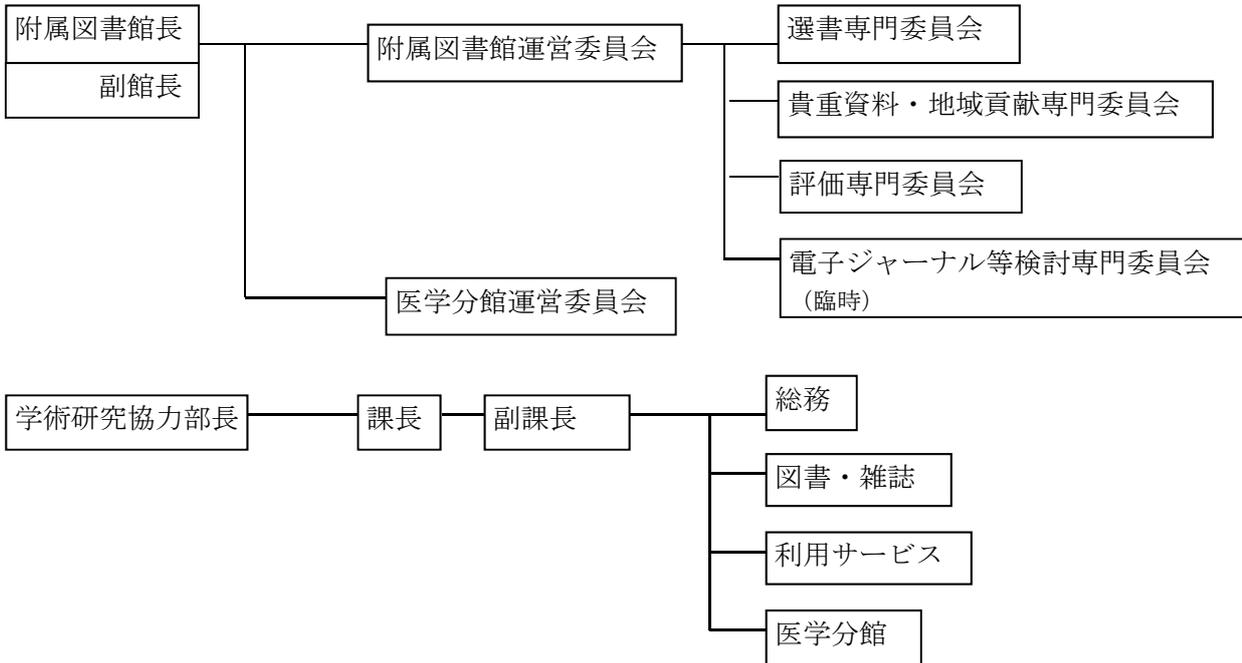
年度	展 示 名	展 示 内 容
25	<ul style="list-style-type: none"> ①鉄道を夢みた男たち ②小城藩と和歌-直能公自筆『岡花和歌』の里帰り- ③九州の蘭学 武雄の蘭学 ④市民の歴史研究事始め-自由民権カレッジ一期生の成果- ⑤儒家三代～古賀精里・穀堂・侗庵・謹一郎～ 	<ul style="list-style-type: none"> ①小城鍋島文庫から「遠西奇器述」 ②小城鍋島文庫から「八重一重」ほか35点, 市場直次郎コレクションから「今泉蟹守和歌」 ③小城鍋島文庫から「遠西奇器述」 ④市場直次郎コレクションの画像データから「小池池旭 紅梅図」 ⑤小城鍋島文庫から「津島日記」
26	<ul style="list-style-type: none"> ①図録「小城城下と牛津宿」出版 ②小城城下と牛津宿-小城藩政の展開と人びとの経済活動 ③実録『火城』伝～幕末佐賀のテククラート～ ④医学のあけぼのから先端医療まで 	<ul style="list-style-type: none"> ①小城鍋島文庫から「直能公御年譜6」ほか26点 ②小城鍋島文庫から「直能公御年譜6」ほか8点 ③小城鍋島文庫から「遠西奇器述」 ④小城鍋島文庫から「和漢三才図会」
27	<ul style="list-style-type: none"> ①小城鍋島藩と島原の乱 ②小城祇園祭-千葉・鍋島から現代へ ③花鳥風月に遊ぶ-近世の絵師と歌人 	<ul style="list-style-type: none"> ①小城鍋島文庫から「元茂公御年譜」ほか6点 ②小城鍋島文庫から「小城祇園祭日記」ほか12点, 市場直次郎コレクションから「和歌(今泉蟹守)」 ③市場直次郎コレクションから「扇面(与謝蕪村)」ほか30点
28	<ul style="list-style-type: none"> ①「幕末維新期の小城」(平成28年7月15日(金)～8月10日(水)) 於:佐賀大学美術館、佐賀大学菊楠シュライバー館) ②「花守と介次郎:明治を担った小城の人びと」(平成28年10月22日(土)～12月4日(日)) 於:小城市立歴史資料館) 	<ul style="list-style-type: none"> ①小城鍋島文庫から「小城藩日記 元治元年」ほか7点 ②市場直次郎コレクションから「楠公像」、小城鍋島文庫から「柴田介次郎上海談聞書」「聞書」「村崎ト斎覚書他」「小城藩日記」「旧約聖書・新約聖書」、旧制佐高図書館から「開国五十年史」
29	<ul style="list-style-type: none"> ①「地域の文化財群としての小城鍋島文庫蔵書」(平成29年4月28日(金)～5月14日(日)) 於:佐賀大学美術館) ②「鍋島元茂-父を支え、小城を領す」(平成29年10月28日(土)～12月10日(日)) 於:小城市立歴史資料館) ③「明治150年 鍋島茂昌と羽州戦争」(平成29年11月18日(土)～12月17日(日)) 於:武雄市図書館・歴史資料館) ④「誕生200年記念 沖冠岳と江戸絵画展」(平成30年1月20日(土)～3月25日(日)) 於:愛媛県美術館) 	<ul style="list-style-type: none"> ①小城鍋島文庫から「近代公実殿秘録」ほか20点 ②小城鍋島文庫から「直茂公御年譜」ほか7点 ③小城鍋島文庫から「奥州国郡分色地図」 ④市場直次郎コレクションから「武士図」
30	<ul style="list-style-type: none"> ①「佐賀大学所蔵名品展「幕末の佐賀と学問-維新への道-」」(平成30年7月13日(金)～8月10日(金)) 於:佐賀大学美術館) ②明治維新150年企画展「緒方洪庵と佐野常民～唯おのれをすてて、人を救はんことを希ふべし～」(平成30年11月3日(土)～12月16日(日)) 於:佐賀市佐野常民記念館) 	<ul style="list-style-type: none"> ①小城鍋島文庫から「柴田介次郎上海談聞書」ほか7点 市場直次郎コレクションから「落雁図」ほか29点 ②小城鍋島文庫から「大庭雪齋コレクション和蘭文典・上下」

<p>③「千葉の城・鍋島の城—小城武士の本拠を探る」（平成30年11月2日（金）～12月16日（日） 於：小城市立歴史資料館）</p> <p>④「佐賀藩10代藩主 鍋島直正展」（平成31年1月4日（金）～2月9日（土） 於：佐賀大学美術館）</p>	<p>③小城鍋島文庫から「肥陽軍記」ほか6点</p> <p>④市場直次郎コレクションから「古川松根和歌短冊」ほか3点</p>
--	--

4 組織運営

Ⅲ-4-1 附属図書館組織・機構図

平成 30 年 4 月



Ⅲ-4-2 附属図書館職員数

5月1日現在（単位：人）

年度	本館			医学分館			合計		
	常勤	非常勤	計	常勤	非常勤	計	常勤	非常勤	計
25	10(7)	9(3)	19(10)	2(2)	6(4)	8(6)	12(9)	15(7)	27(16)
26	10(7)	10(4)	20(11)	2(2)	5(3)	7(5)	12(9)	15(7)	27(16)
27	9(6)	10(5)	19(11)	2(2)	3(2)	5(4)	11(8)	13(7)	24(15)
28	9(5)	10(6)	19(11)	2(2)	3(1)	5(3)	11(7)	13(7)	24(14)
29	8(4)	10(6)	18(10)	2(2)	3(1)	5(3)	10(6)	13(7)	23(13)
30	8(4)	10(6)	18(10)	2(2)	3(1)	5(3)	10(6)	13(7)	23(13)

(注) () 書は司書数で内数

Ⅲ-4-3 職員研修状況

年度	研修名	場所	人数(人)
25	学術情報セミナー	福岡市	1
	学術情報ウェブサービス担当者研修	福岡市	1
	Library Lover's キャンペーン ワーキング会議	福岡市	1
	北部地区研究会目録講習会	北九州市	1
	法人等係長研修	福岡市	1
	文化庁著作権講習会	京都市	1
	九州地区国立大学法人等テーマ別研修会	福岡市	2
	国立大学会計事務講習	佐賀市	1
	佐賀大学係長研修	佐賀市	1
	佐賀大学幹部職員（副課長）研修	佐賀市	1
	佐賀大学接遇・マナー研修	佐賀市	2
佐賀大学中堅職員ステップアップ研修	佐賀市	2	

26	目録システム地域講演会（雑誌コース）	山口市	2
	九州地区事務情報化推進要員スキルアップ研修	福岡市	1
	大学図書館職員研修会	福岡市	2
	九州地区医学図書館員セミナー	福岡市	1
	佐賀大学情報化要員養成研修(EXCEL)	佐賀市	4
	佐賀大学係長ステップアップ研修	佐賀市	2
	佐賀大学接遇・苦情クレーム対応研修	佐賀市	5
27	大学図書館職員長期研修会	筑波市	1
	学術情報セミナーIN 福岡	福岡市	1
	北部地区研究会目録講習会	北九州市	1
	中国・四国・九州地区大学図書館職員フレッシュ・パーソン・セミナー	鹿児島市	1
	九州地区国立大学法人等テーマ別研修会	長崎市	1
	九州地区国立学校会計事務研修	熊本市	1
	九州地区医学図書館員セミナー	沖縄県中頭	1
	九州地区国立大学図書館協会館員館職員研修WG	福岡市	1
	佐賀大学係長研修	佐賀市	1
	佐賀大学簿記研修	佐賀市	3
	佐賀大学評価者研修及び評価制度研修	佐賀市	1
	佐賀大学情報システム統一研修	佐賀市	2
28	佐賀県公共図書館職員研修会（第1回）	佐賀市	1
	佐賀大学情報システム統一研修（7月～9月）	佐賀市	6
	機関リポジットリ新任担当者研修	長崎市	1
	九州地区国立大学法人等係長研修	宮崎市	1
	佐賀大学係長ステップアップ研修	佐賀市	1
	大学図書館職員短期研修会	京都市	1
	佐賀大学情報システム統一研修（10月～12月）	佐賀市	2
	九州地区国立学校会計事務研修	大分市	1
	九州地区国立大学図書館協会館員館職員研修WG	福岡市	1
	国立大学図書館協会シンポジウム	福岡市	2
	佐賀大学接遇・マナー研修	佐賀市	1
29	佐賀大学評価者研修	佐賀市	1
	佐賀大学苦情クレーム対応研修	佐賀市	2
	佐賀大学中堅職員ステップアップ研修	佐賀市	1
	佐賀大学幹部職員（課長級）研修	佐賀市	1
	佐賀県公共図書館職員研修会	佐賀市	5
	佐賀大学情報システム統一研修（4月～6月）	佐賀市	1
	管理監督者・労務担当者講習会	小城市	1
	九州地区国立大学図書館協会館員館職員研修WG	福岡市	1
	学術情報ソリューションセミナー2017 in FUKUOKA	福岡市	2
	中国・四国・九州地区大学図書館職員フレッシュ・パーソン・セミナー	鳥取市	1
	九州地区国立大学法人等テーマ別研修会	鹿児島市	1
	IIIF ワークショップ in 九州	福岡市	1
	国立大学図書館協会地区協会助成事業九州地区事業による研修会	熊本市	1
	国立大学図書館協会地区協会助成事業ワークショップ	岡山市	1
30	佐賀大学新採用職員（事務職員）研修	佐賀市	1
	佐賀大学評価制度研修	佐賀市	1
	新規採用職員就業規則等研修	佐賀市	2
	佐賀大学中堅職員研修	佐賀市	1

	共同利用拠点研修会	佐賀市	1
	佐賀県公共図書館職員研修会	佐賀市	4
	九州地区医学図書館員セミナー	北九州市	1
	国立大学図書館協会近畿地区助成事業による研修会	京都市	2
	国立大学図書館協会九州地区助成事業ワークショップ	鹿児島市	2
	丸善雄松堂アカデミックセミナー2018	福岡市	1
	学術情報ソリューションセミナー2018 in FUKUOKA	福岡市	2

Ⅲ-4-4 図書館経費

①本館予算

単位：千円

年度	図書館維持費	図書購入費		計
		図書購入費	学長経費等 (電子ジャーナル経費)	
25	40,857	20,582	75,000	136,439
26	37,247	20,379	75,000	132,626
27	36,516	20,177	75,000	131,693
28	35,342	15,025	75,000	125,367
29	36,905	16,525	75,000	128,430
30	31,780	16,525	75,000	123,305

(注1) 平成25年度は電子ジャーナル整備費として学長経費50,000千円プラス25,000千円(科研費補助金間接経費及びその他補助金間接経費)を計上した。

図書費として20,582千円を計上した。

(注2) 平成26年度は電子ジャーナル整備費として学長経費50,000千円プラス25,000千円(科研費補助金間接経費及びその他補助金間接経費)を計上した。

図書費として20,379千円を計上した。

(注3) 平成27年度は電子ジャーナル整備費として学長経費50,000千円プラス25,000千円(科研費補助金間接経費及びその他補助金間接経費)を計上した。

図書費として20,177千円を計上した。

(注4) 平成28年度は電子ジャーナル整備費として学長経費50,000千円プラス25,000千円(科研費補助金間接経費及びその他補助金間接経費)を計上した。

図書費として15,025千円を計上した。

(注5) 平成29年度は電子ジャーナル整備費として学長経費50,000千円プラス25,000千円(科研費補助金間接経費及びその他補助金間接経費)を計上した。

図書費として16,525千円を計上した。

(注6) 平成30年度から施設維持費等が一元管理となり部局等への予算配分がなくなった。

②本館決算

単位：千円

年度	図書館維持費	図書購入費		計
		図書購入費	学長経費等 (電子ジャーナル経費)	
25	40,897	20,582	78,591	140,070
26	40,272	20,379	85,665	146,316
27	33,723	20,102	84,217	138,042
28	35,346	15,024	71,568	121,938
29	36,900	15,902	72,015	124,817
30	30,855	16,522	72,212	119,589

③ 医学分館予算

単位：千円

年度	図書館維持費	図書購入費		計
		図書購入費	医学部経費	
25	16,274	7,374	34,041	57,689
26	16,178	7,301	30,168	53,647
27	15,378	7,226	33,987	56,591
28	15,725	6,000	57,210	78,935
29	14,162	4,500	46,225	64,887
30	13,666	4,500	39,865	58,031

④ 医学分館決算

単位：千円

年度	図書館維持費	図書購入費	計
25	15,435	42,405	57,840
26	14,398	47,762	62,160
27	13,255	52,614	65,869
28	16,991	50,757	67,748
29	13,862	45,423	59,285
30	14,146	44,155	58,301

※医学分館の予算・決算は、附属図書館の決算書の医学分館及び医学部経費の合計
平成28年度では、図書購入費を一部設備品購入に充当した。

Ⅲ-4-5

① 図書館資料費

単位：千円

区分	本館	分館	合計
図書	31,522	7,303	38,825
雑誌	5,512	4,947	10,459
電子ジャーナル	68,921	26,363	95,284
電子書籍	369	114	483
データベース	9,609	5,428	15,037
その他	16	0	16
合計	115,949	44,155	160,104

【参考】図書館資料費（『平成30年度学術情報基盤実態調査結果報告』）

（一大学平均）

単位：千円

国立大学	大学数	図書	雑誌	電子ジャーナル	電子書籍	データベース	その他	計
B（5～7学部）	20	22,578	24,854	128,165	2,679	18,828	41,727	238,831

② 電子資料経費

単位：千円

年度	電子ジャーナル経費	電子書籍経費
25	97,586	3,505
26	108,823	3,924
27	114,043	6,196
28	101,354	1,870
29	92,337	1,964
30	93,004	484

5 施設・設備

Ⅲ-5-1 面積・閲覧座席数・書架収容力（令和元年5月1日現在）

①面積

単位：㎡

	サービススペース					管理スペース				合計
	閲覧	視聴覚	情報端末	その他	計	書庫	事務	その他	計	
本館	699	30	150	1,167	2,046	611	411	2,596	3,618	5,664
分館	495	56	36	203	790	583	186	210	979	1,769
合計	1,194	86	186	1,370	2,836	1,194	597	2,806	4,597	7,433

②閲覧座席数

単位：席

	1階	2階	3階	合計
本館	275	97	263	635
分館	88	104	-	192
合計	363	201	263	827

③書架収容力

	棚板延長（m）	収容可能冊数（冊）	書架配架冊数（冊）	収蔵率（％）
本館	16,680	463,333	449,603	97
分館	4,231	117,528	115,449	98
合計	20,911	580,861	565,052	97

Ⅲ-5-2 図書館利用者用端末台数（令和元年5月1日現在）

単位：台

	据置き	貸出し	計
本館	74	0	74
医学分館	62	0	62
計	136	0	136

Ⅲ-5-3 アクティブ・ラーニング・スペース

（令和元年5月1日現在）

	面積（㎡）	運営体制（人）			
		職員（図書館）	職員（図書館以外）	教員	学生スタッフ
本館	750	3	0	0	0
医学分館	36	2	0	0	0
計	786	5	0	0	0

【参考】アクティブ・ラーニング・スペースについて（『平成30年度学術情報基盤実態調査結果報告』）

国立大学	大学数	設置大学		設置館		面積（㎡）	
		大学数	設置率（％）	館数	設置率（％）	合計	1大学平均
B（5～7学部）	20	19	95	29	65.9	15,968	798

国立大学	大学数	設置大学数	運営体制（人）					1大学平均職員（図書館）	1大学平均左記以外
			職員（図書館）	職員（図書館以外）	教員	学生スタッフ			
B（5～7学部）	20	19	122	12	31	84	6	6	

Ⅲ-5-4 グループ学習室の設備

①本館

	座席数	設備
グループ学習室 1	16席(予備3席)	プロジェクター、スクリーン、大型ディスプレイ ホワイトボード
グループ学習室 2	12席(予備8席)	
グループ学習室 3	24席	
グループ学習室 4	18席	大型テレビ(ディスプレイとして使用可) BD/DVD/VHS プレイヤー、ホワイトボード
グループ学習室 5	22席	大型ディスプレイ、ホワイトボード

②医学分館

	座席数	設備
ビデオスライド室 1	12席	プロジェクター用スクリーン、テレビモニター 顕微鏡、DVD・VHS プレイヤー、ホワイトボード
ビデオスライド室 2	4席	テレビモニター、電気顕微鏡、DVD・VHS プレイヤー ホワイトボード

Ⅲ-5-5 各室使用状況(本館)

年度	グループ学習室予約(回)	閲覧個室(人)
25	2,214	613
26	2,112	611
27	1,751	225
28	1,626	360
29	2,091	211
30	2,504	223

Ⅲ-5-6 グループ学習スペース及びグループ学習室 5 入室状況(本館)

年度	グループ学習スペース入室者数(人)	グループ学習室 5 入室者数
28	66,130 *	28,995
29	69,514	35,464
30	57,585	64,783

*参考値(計測に一部誤りがあるため補正した数値)

Ⅲ-5-7 会議室利用状況(本館)

年度	回数(回)	時間(時間)
25	129	668
26	138	630
27	134	516
28	60	272
29	71	277
30	93	344

佐賀大学附属図書館自己点検評価報告書（平成30年度）検証票

項番	評価項目	評 価	評価についてのコメント
1	教育支援	<input checked="" type="checkbox"/> 十分よい <input type="checkbox"/> おおむね良い <input type="checkbox"/> ある程度よい <input type="checkbox"/> 不十分	学生用資料の選定は選書専門委員会で計画的に収集されており、また学生希望図書制度や図書館サポーター学生を利用して学生のニーズにも応えられるシステムになっている。情報リテラシー教育支援では、初級・中級コースが用意され、初級コースではアクティブ・ラーニング（ゲーム形式）を取り入れるなどの工夫は高く評価できる。ラーニングコモンズとなっている1階以外にも随所に閲覧機が配置されており、学習の環境づくりが為されていることも評価される
2	研究支援	<input type="checkbox"/> 十分よい <input checked="" type="checkbox"/> おおむね良い <input type="checkbox"/> ある程度よい <input type="checkbox"/> 不十分	研究用資料の有効利用のため、すべての資料を含むデータベースを管理し、最新情報を Web 上で公開している。電子ジャーナルの導入は、電子ジャーナル等検討専門委員会、運営委員会の協議に基づいて行われており、限られた予算を有効活用する努力がなされ、既に来年度の導入も決定されている。今後は、現在本庄キャンパスの教員に協力依頼している、紀要や博士論文以外の論文の機関リポジトリへの登録が促進されるよう、さらなる取り組みが期待される。
3	社会貢献	<input checked="" type="checkbox"/> 十分よい <input type="checkbox"/> おおむね良い <input type="checkbox"/> ある程度よい <input type="checkbox"/> 不十分	市民への情報サービスとして貸し出しや文献複写サービス以外に、グループ学習室の利用も可能となっている。また、毎年11月の「図書館月間」では公開講座（講演会、貴重資料の展示会）を実施している。実施時にはアンケートで参加者の希望を聞くなど、市民のニーズに応えようとする姿勢が伺える。さらに、実習生や研修生の受け入れも積極的に行っており、図書館業務の啓蒙にも努めていることは評価に値する。
4	組織運営	<input checked="" type="checkbox"/> 十分よい <input type="checkbox"/> おおむね良い <input type="checkbox"/> ある程度よい <input type="checkbox"/> 不十分	本館、分館ともに運営委員会が設置され、さらにその下に4つの専門委員会が置かれ、組織的な運営がなされている。法人化後の事務組織再編等により人員が限られている中で、財務会計システムと図書館システムを連携させることで、財務管理の効率化を図っている。また、財源が限られている中でも各部署との連携を密にし、図書の整備に努めている。研修面では非常勤職員にも参加の機会を与えており、全職員一丸となって運営に取り組む姿勢が伺える。
5	施設・設備	<input checked="" type="checkbox"/> 十分よい <input type="checkbox"/> おおむね良い <input type="checkbox"/> ある程度よい <input type="checkbox"/> 不十分	図書館入り口から、全体がラーニングコモンズのフロアになっている1階がほぼ見渡せる構造になっており、学生が足を運びやすい環境を整えている。大学の図書館としては非常に親しみやすい雰囲気になっており高く評価できる。またトイレの改修を進め、利用環境の改善にも努めている。地震等の災害に対する対応として、書架に滑り止めシートを利用するなど利用者の安全への配慮もなされている。今後は、分館の老朽化への対応が早急に実現することが望まれる。
6	評価手法	<input type="checkbox"/> 十分よい <input checked="" type="checkbox"/> おおむね良い <input type="checkbox"/> ある程度よい <input type="checkbox"/> 不十分	限られた予算と人員の中で、教育の質的転換の推進、地域に開かれた生涯学習の推進への取り組みなどへの自己評価が行われている。資料として量的情報が整理されているものの、利用者へのアンケート結果が示されていないのは残念である。利用者の声とそれへの対応を示し、その自己評価も行うことにより、成果や課題が明確になるとと思われる。

令和 2 年 2 月 19 日

検証者所属
検証者氏名

西九州大学
溝田 勝彦

